

毛勝山 (2414M) 2010.1010～11

剣岳の北に、黒部溪谷を挟んで、白馬岳と対峙する、二百名山難関の山の一つ

天候等で8月から延期につぐ延期になっていた因縁の山。今回も天候不順で10/10 9時過ぎに「一応登山口の片貝山荘に15:00集合し、天候見て」との埼玉県のU氏との結論で慌てて登山準備。

登山口手前の片貝山荘に前泊



10/10 (日) 自宅 10:30～アチコチ寄ってから～
13:06 糸魚川IC～13:50 魚津IC 14:02～
14:30 片貝山荘。(泊) 153KM走行。

北陸道のPAで「富山のマス寿司」購入する。日持ちが良いので明日の朝食、昼食用に。一ケ1300円。魚津ICで登山口への道を聞く。「IC出口を左折して、兎に角直進との事」分り易い。途中から雨が降ったり、止んだり。日本海側は兎角天気が気ままだ。片貝山荘は発電所の宿泊所だ

ったのを、魚津市が引き取って山スキーや登山者に開放しているようだ。部屋がいくつもある。利用には魚津市教育委員会の利用許可証が必要である。有難い施設だ。帰りに小額だが「カンパ金」を箱に投入した。U氏が到着後、二人で登山口の確認に行く。暗い内に歩きだすので念のため。ネットの情報より、300Mほど手前にゲートが移設されていた。山荘に戻り、早速飲みながら話をする。彼とは「人工内耳友の会」のMLで知り合った仲だ。私の自己紹介に登山、テニスの、趣味が同じ彼からのメールで。彼とは昨年秋に「信州百名山の難関の一つである」戸隠西岳と一緒に登った。紅葉の快晴で素晴らしい山行だった。今年の夏に北海道のカムエク、ペテガリ(いずれも200名山の難関の山)に同行する約束であったが、私が仕事をするようになり休みがとれないので、彼は一人で山行した。(北海道の残りの山は踏破したが、ペテガリは林道が通行止めになり来年になったとの事。)その「ペナルティ」も含めて今回の同行になった。「失聴期間」が長いU氏はさすがに戸隠西岳の時は筆談が多かったが、リハビリと本人の努力で今回はほとんど会話が可能であった。聞こえない人が聴力を取り戻す、医学の画期的進歩である。私は手術後からすぐ聞こえが戻ったが、逆にそれ以上の聞こえの進歩はほとんど無い。北海道の話聞いた。

途中から平塚市の単独行者も話しに加わる。彼も200名山派で残りわずかのようだ。矢張り難しい山が残っているようだが彼は私と同じ年だが、体力があるので完登達成できると思う。何しろフルマラソンやるようなので。体型も持久力向きだ。仕事も近い内に退社するようなので、200どころか300名山達成も可能だと感じた。明日は4:00起きなので20:00過ぎに寝る。

10/11 (祭) 登山口 6:40～12:25 毛勝山 13:16～18:00

登山口 P 18:20～21:15 自宅

6:00 過ぎに目を覚ます。寝すぎたと思ったら、雨降りなので起こさなかったとU氏。又中止か。今日は最悪でも雨は降らない筈なのに。平塚市人は「天候回復するはずなので」と雨の中登山に出かける。当方は中止を決める。その内に雨が止む。外へ出て空を見ていたら、青空になりそうな感じだ。相談する。一応登山する事にする。雨が降ってきたら中止と言う事で。登山口まで車ですぐ。平塚氏の車があり、後から一台来た。その人が我々に「大変な山ですよ」と忠告してきた。私は「知っています。下山は暗くなるの覚悟です」と返事する。予定より2時間遅れた。登山道は、聞いていた通り最初から急登。昨日からの雨の割には滑りやすくはないのが救い。勾配がゆるくなる中盤からは水溜りも多く足の置き場に苦労するし、滑り易い。また登山道が熊笹などで覆われているので、濡れる。青空になり、隣の僧ヶ岳が大きく望める。朝日岳も。その内に白馬三山も望めるようになる。鑓ヶ岳だけが真っ白なのは積雪か？紅葉も綺麗になる。

今回は念のために「ナビ」持参し、ポイントを数箇所セットし、(2.5 万分の一の地図も) てきたので現在位置はわかる。兎に角登山口に簡単な表示があるだけでそれ以外何もない。登山道の整備状況含めて北海道の登山道に似ている。平塚氏が下山して来る。矢張り足も速い。ユックリ7時間の予定より早く山頂に到着する。

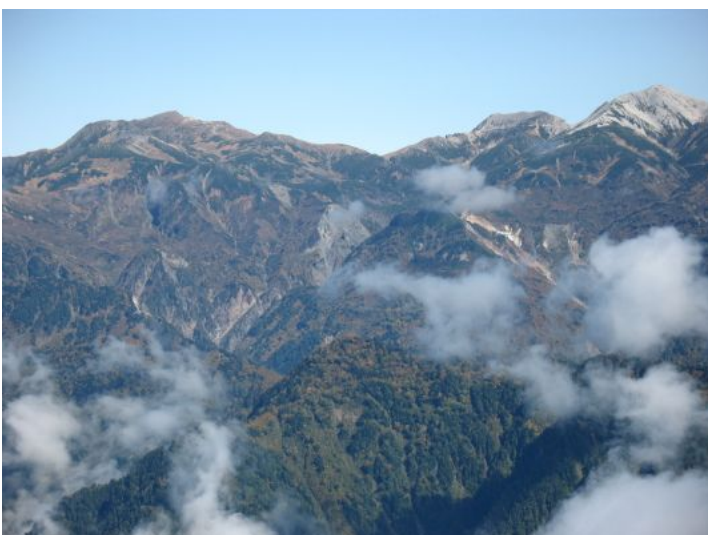
大展望の山頂、後ろは剣岳



毛勝山頂からの剣岳、右は立山連峰



白馬三山、右から鑓ヶ岳、杓子岳



右は鹿島槍ヶ岳、左は五竜岳、今夏歩いた所



隣の僧ヶ岳。登山口はほぼ同じ所



登山口で「忠告」してきた二人連れ（金沢からと言っていた）に記念写真を撮ってもらおう。朝日～白馬三山～五竜～鹿島槍～爺ヶ岳～剣～立山～薬師の大展望！！すぐ隣には毛勝三山の釜谷山と猫又山が続く。今夏2名滑落死した不帰のキレットも眼前に。8月に鹿島槍～五竜。白馬三山の縦走で眺めた「毛勝三山」を今度は逆に白馬岳～爺ヶ岳を眺めている。これぞ登山妙義だ。2時間位ビールでも飲みながらユックリしたい天気と大展望だが、暗くなるのは覚悟とは言

え、下山せざるをえない。途中で単独行と擦れ違う。登山口10:30との事。結局この日は4パーティーの6名のみ。下山は計画書の4:40と同じ時間かかってしまう。私が帰路はトップのせいだ。（登りの急坂は苦にならないが、下りは膝をかばい、又転倒を避ける為に遅いので）途中から「ヘッドライト」のお世話になる。片道6KM（標高差1700M）と距離的には長くはないのに、何故か時間のかかる登山道である。余談になるが、二人共登山は汗をかくので、人工内耳の装置は故障を防ぐ為にはずす事が多い。会話が不能で不便だし、落石、雷、熊など危険防止にも良くない。「休憩」の合図はひとさし指一本。これぞ一本立てるだ。U氏は300名山を目指しているが、とりあえず200名山完登を来年達成予定。今月難関の一つの大無間山に登頂予定との事。慌しく別れたが、彼とはユックリもっと会話がしたかった。

私は明日勤務なので温泉に入らず帰宅。

赤沼健治レポート